

成人看護学実習 周手術期 看護記録Ⅰ (対象の情報・アセスメントシート)

氏名				年齢	入院年月日		令和	年	月	日	情報		アセスメント		
性別 ( 男 女 )				歳	受けもち 期間	令和		年	月	日	～	月	日		
予定術式と麻酔															
既往歴				現病歴				現在の主な症状				呼吸機能			
												循環機能			
				インフォームドコンセントの内容と患者の認識・受容の状況 (予想されるボディイメージの変化も含む)				免疫機能							
								肝機能							
検査項目	/	/	/	日常生活動作								凝固機能			
				社会的側面								腎機能			
				心理・精神的側面								疼痛または感染症			
												その他 (運動・排泄機能など)			

看護記録Ⅰ-Ⅱ

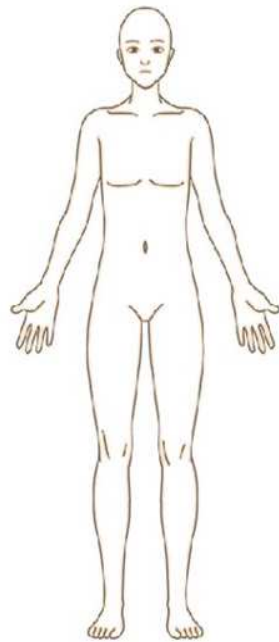
学績番号 ( ) 名前 ( )

手術中の対象の状態

手術日： 月 日

\* 術式 ( ) 再建法など図示の明記する

\* 術式 (創部・挿入物)



- ・ 麻酔方法
- ・ 麻酔時間
- ・ 手術時間
- ・ 使用薬剤 (筋弛緩剤など)

\* 術中の状態 (手術体位・進行度や手術操作による影響・バイタルサインの変化・覚醒状態など)

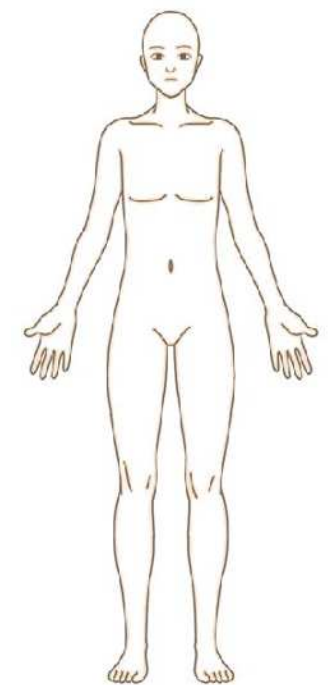
薬剤名	作用	副作用	投与方法	患者へ投与する目的

検査等

病名 (

) 術式 (

学籍番号 ( ) 氏名 ( )  
) 麻酔の種類 ( )





看護上の問題点 #		
立案	解決目標 及び 期限	具 体 策



看護記録V

学籍番号( ) 氏名( )

～実習の学び～

一日の実習計画表

月 日 実習（ ）日目 { 受けもち（ ）日目・病棟フリー・HCU・（ ）外来 }

学生氏名：

担当看護師：

本日の目標（目的も含めて記入する。）							
行動計画・実施したいケア・見学したい処置等							
8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
実施・評価							
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 具体的場면을挙げ、その意味づけや根拠を考えたり、そこから学んだことを記述する。</li><li>・ 受けもち実習の手術前は目標に沿って SOAP で記入する。（プラン立案以降は実習の学びを記入する。）</li></ul>							
アドバイスいただいた内容（学生記述）							

学籍番号 ( ) 学生氏名 ( )

受けもち対象の氏名 : (←鉛筆書きでフルネームを記入し、返却された後消すこと)

手術予定日 : 予定術式 : 担当看護師 : \_\_\_\_\_

見学目的

見学を通して学びたい内容 (看護師目線ではなく、患者の生体反応を視점에記述)

↑手術前日夕方までに手術室へ提出、それまでに教員が一度目を通す

用紙裏面に手術見学後レポート記載



学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
周手術期にある対象の経過や特徴を理解する。	周手術期の対象を、事前・自己学習を活用しながら包括的な視点で捉えることができる。	対象理解 倫理観	事前学習 実習記録ⅠⅡⅢⅣ 1日の実習計画表 ミーティングの 発言 面接	ねがう姿を想定・確認しながら、周手術期にある対象の特徴を理解して、看護の方向性を考えられている。  2 0	周手術期にある対象の特徴を理解して、看護の方向性を考えられている。  1 0	周手術期にある対象の特徴は理解している。  5	周手術期にある対象の特徴を理解するための学習が不十分である。  3
急性の経過に合わせた看護援助を立案し、実施する。	根拠を明確にして、対象のねがう姿に向けた看護計画を立案し、実施している。	実践力 調整力 倫理観	術前後の患者支援 実習記録ⅢⅣ 1日の実習計画表 実習状況（調整・ 出欠席）	根拠を明確にして、対象のねがう姿に向けて、急性の経過に合わせた個性のある看護計画を立案し実施している。  2 5	根拠を明確にして、対象のねがう姿に向けて、急性の経過に合わせた看護計画を立案し実施している。  2 0	変化する対象の経過に合わせた看護計画を立案し実施している。  1 0	看護計画を立案し実施している。  5
実施した援助について評価・修正する。	実施した援助を、ねがう姿に近づいているか評価し、より対象の経過に合わせた援助に発展させている。	実践力 探求心 倫理観	実習記録ⅠⅢⅣ 1日の実習計画表 ミーティングの 発言 面接 出欠席	実施した援助を、ねがう姿に近づいているか評価し、より対象の経過に合わせた援助に発展させている。  2 0	実施した援助を、ねがう姿に近づいているか評価し、対象にとっての効果を振り返っている。  1 5	実施した援助を対象にとって安全・安楽であったか振り返っている。  5	自分の反省や取り組みについて表現している。  3
周手術期にある対象との関わりを通して、急性期の看護について表現する。	自己の看護観として、周手術期における対象の健康障害と家族への影響などを述べるができる。	実践力 探求心	実習記録Ⅴ 1日の実習計画表 ミーティングの 発言	急性期にある対象・家族・社会的側面などの関わりを通して、周手術期看護についての考えを、文献等を利用しながら表現している。  2 5	急性期にある対象との関わりを通して、周手術期における自己の学びを表現している。  2 0	学びや指導者の助言を活かして自己の学びとして表現している。  1 0	学びや指導者の助言のみ 表現している。  5
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する。	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している。  1 0	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。  5	看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るという視点で自己の行動を振り返っている。  3	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。  0

欠課時間  
( )時間/90時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン